

自己評価報告書

平成 21年 5月31日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：18520640
研究課題名（和文） 民俗芸能保護における「記録選択」の意義に関する調査研究

研究課題名（英文） Research and study about the meaning of “*Kiroku Sentaku*” in the safeguarding of folk performing arts

研究代表者

宮田 繁幸（MIYATA SHIGEYUKI）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・無形文化遺産部長

研究者番号：20342941

研究分野：人文学

科研究の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：民俗芸能、無形民俗文化財、記録選択

1. 研究計画の概要

平成18年度は、本研究遂行にあたって、現地調査での音声・映像データの収集・整理に必要な設備備品を整備する。現地調査としては、昭和50年の法改正以前に、無形文化財として記録選択された205件のうち、民俗文化財指定制度発足後に未だ指定されるにいたっていない81件の無形民俗文化財を対象とし、そのうち6件程度を抽出する。

平成19年度は、昭和50年以前に記録選択された無形民俗文化財のうち、現在までに重要無形民俗文化財に指定されたものを中心に引き続き調査を実施する。

平成20年度は、昭和51年以降（現行指定制度発足後）に記録選択された無形民俗文化財のうち、現在までに重要無形民俗文化財に指定されていないものを中心に引き続き調査を実施する。

平成21年度は、昭和50年以降に記録選択された無形民俗文化財のうち、現在までに重要無形民俗文化財に指定されたものの調査と、前3カ年に行ったものの追加調査及び再調査を実施する。

2. 研究の進捗状況

研究計画は一部の現地調査を除き、概ね順調に進捗している。一部調査対象については、調査時の公開が、補助事業遂行時に当たったため、通常公開とは異なる状況も確認され、また当日の天候等により、十分な調査が実施できないものもあったため、本年度極力再調査を実施する。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

平成18年度 調査目標6件中6件の調査実施。

平成19年度 調査目標7件中7件実施。

平成20年度 調査目標6件中5件実施。

このように現在までのところ、調査予定19件のうち、実施できた調査は18件である。また、実施した調査のうち、記録作成のための調査団が入るなど、通常の公開状況とはことなるものが2件あった。

したがって、現在までの達成度としては、約90%程度と判断する。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、実施できなかった調査の補完と、必要な再調査の実施、及び新対象の調査を実施するとともに、全体の分析をおこない、本研究をとりまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2件)

①宮田繁幸「日本における無形民俗文化財の保護—その現状と課題—」文化資源シンポジウム「地方文化からの観点」国立台北芸術大学文化資源学院 07.12.08

②宮田繁幸「日本無形文化遺産の保護と普及」2008 富川世界無形文化遺産 EXPO 国際学術会議 大韓民国富川市 08.10.11